

(別紙様式1)

平成 19 年 4 月 27 日

文化庁長官官房審議官 殿

神奈川 県

私立神奈川大学附属高等学校 校長

校長名 澤田 敏志 印



平成18年度「著作権教育研究協力校」における著作権教育の具体的指導法の研究開発の成果報告書を提出します。

研究成果報告書

研究の実施期間：委嘱を受けた日から平成19年3月31日

研究担当者名： 小林 道夫

## 1 学校の概要

所在地・電話番号	〒 226 - 0014 所在地： 神奈川県横浜市緑区台村町 800 TEL： 045-934-6211				
児童・生徒数 (平成 18 年 4 月 1 日現在)	学 年	生徒・児童数			学級数
		男	女	計	
	第 1 学年	165	91	256	7
	第 2 学年	132	71	203	6
	第 3 学年	147	68	215	6
	第 4 学年				
	第 5 学年				
	第 6 学年				
	計	444	230	674	19
教員数	62 名 (中高一貫校のため中学兼任。非常勤講師は含まない。)				
学校・地域の 教育的環境	<p>横浜市の緑多い環境の中で、1985 年に開校し、今年で 23 年目を迎えています。2004 年より併設型中高一貫校に移行し、「国際化への対応」「情報化社会への対応」「個別化・個性化の立場」「生き方探しの進路指導」「生涯教育の立場」「ジェンダーフリーの立場」という 6 つの理念もと教育活動を行っています。</p>				

## 2 研究成果の概要

### (1) 研究主題

中高一貫校としての情報教育 6 カ年カリキュラムの中で、体系的な著作権教育を実施するためのカリキュラムを作成し、実践する。

### (2) 研究のねらい

本校は、中高一貫校としての情報教育 6 カ年カリキュラムを実施している。著作権教育は中学では、技術・家庭科が、高校では情報科が中心となって学習を進めているが、国語科、社会科、公民科と連携を図りながら実施したい。

著作権については、中学 1、2 年生で実施している情報基礎講座、中学 3 年時の技術家庭科の「情報とコンピュータ」で学習している。中学生にとって特に関わりの多い音楽やゲームソフトウェアを例に著作権についての正しい理解を身につけさせることと、生徒一人一人が正しい行動がとれることを目標に指導している。

高校では、高校 1、2 年で情報科「情報 C」を全生徒が履修しており、著作権に関する学習はこの科目が中心となる。高校生となれば、音楽や画像、映像といったメディアコンテンツの著作権に関する扱いだけでなく、自分が著作者として文書を執筆したりメディアコンテンツを制作することが多くなっていく。よって知的所有権に関して、他者の著作物の扱いと、自らが著作者となって公的な場で発表する場合についても学習する。

### (3) 研究の概要

#### 1、学校の取組み

学校全体で著作権に関する意識を高め、教育実践として生徒を指導していくためには、学校自体が著作権に対して厳しく対応していかなければならない。平成 17 年度より日本文芸家協会 (<http://www.bungeika.or.jp/top.htm>) の著作権利用等に係る教育 NPO 会員となり、入試問題等に係る著作権利用に関する点を明確にすることとなった。特に国語の作問に関して文学作品を活用する際には許諾をとる形をとっている。国語科はもちろん他教科においても教員に対して、著作権に関する知識を高めるために講習会や連絡会を実施している。

また、中学生を対象に 8 年前からリソースティーチャーという制度を実施している。これは本校生徒の保護者が講師となってキャリア教育、進路指導の一環として保護者の仕事や人生観について授業を実施している。この授業で映像関係の仕事をしている保護者を講師に招き、音楽業界、映像業界の全体的な話とともに著作権問題についての授業を実施した。この試みは大変好評で次年度以降も実施する予定である。

## 2、体系化した著作権教育

本校は中高で展開している情報教育の一環として、著作権教育を中学 1 ～ 3 年生で実施することとなった。実施体制は技術家庭科、情報科が中心となってカリキュラムを作成し、学年担任会と協力のもと実施している。

中学 1 年生総合的な学習の時間の中で 6 時間のカリキュラムで「情報入門講座」という形で安全にコンピュータとインターネットを活用するための講座を行った。中学 2 年生でも同じく総合的な学習の時間の中で 6 時間のカリキュラムで「情報入門講座 2」を実施し、身の回りで起きている著作権問題に対して興味関心を持ってもらうために、ケーススタディー形式で学習を行った。教材としては、文化庁 Web サイトにある小学生用と中学生用の著作権教育教材を活用した。

中学 3 年では、技術家庭科の「情報とコンピュータ」の中で、情報モラルを学ぶ中で、著作権をケーススタディー形式で学習した。教材としては、文化庁監修「まんが著作権教室」と文化庁 Web サイトにある高校生用の著作権教育教材を中心に展開した。まために DVD 教材として「情報モラルとセキュリティ」（一橋出版）、「情報科社会の光と影」（実教出版）を活用し、これらの著作権に関する部分を視聴させた。また導入では自作プリントの「著作権クイズ」を実施し、基礎知識のチェックをした。

高校 1 年生では、情報 C の「情報化社会と生活」「著作権とネットワーク」「画像処理実習」で著作権を扱った。教材としては検定教科書、情報倫理ガイドブック（神奈川大学）、文化庁 Web サイトにある高校生用の著作権教育教材を中心に展開した。DVD 教材として「情報モラルとセキュリティ」（一橋出版）を活用した。中学で学習した基礎知識のもと、著作者の立場として保護されることの意味や対策についても学習した。

高校 2 年生では、情報 C の「総合実習グループ研究」でテーマを設定し、研究内容を Web 作品として完成させた。教材としては学校用ポータルサイト、情報倫理ガイドブック（神奈川大学）、文化庁 Web サイトにある高校生用の著作権教育教材、まために DVD 教材として「情報科社会の光と影」（実教出版）を活用した。研究 Web 作品を制作するさいには参考文献、画像などの著作権処理について学習し、実際に許諾を取る作業を高校生が実施した。生徒によっては国内の場合もあれば海外もあり、メールでのやりとりや英訳など苦労しながらも実施した。

## 3、保護者へのサポート

子供たちが携帯電話を持ち歩き、自由にインターネットを活用する中で、子供たちに正しい知識と正しい対応を教えることは大変重要である。と同時に保護者に対して正しい情報と対処方法、子供とネットの付き合い方について指導する必要がある。今年度は、外部講師を招かずに、保護者会の議題の一つに各学年で担任教師が講師となって、講習会を開いた。

#### (4) 研究の成果

今年の研究は、情報教育 6 カ年カリキュラムの中で、体系的な著作権教育を実施するためのカリキュラムを実践することであった。著作権問題を個別の問題として捉えず、インターネット社会にはさまざまな利便性と危険な落とし穴があることを体系的に教えることを目標とした。

中学生には講義が中心となってしまうが、高校ではケーススタディーで場面場面の対応を考えることや、研究活動の中で実際に著作権の許諾をとることや、著作者として心がけることを実践で学ぶことができた。ただ、他教科との連携はうまくいかなかったのが現状で、総合的な学習の時間との連携のみとなってしまう。

保護者に対しては、子供たちにネットワークコミュニケーションの問題について講義するとともに著作権の問題も扱い、理解を深めてもらった。

今年度は中学、高校、教職員、保護者の著作権教育、講座を計画し体系的なカリキュラムを考えた。次年度はカリキュラムの評価を行うために、学習効果がいかなるものかを研究してみたい。著作権教育の事前、事後の知識理解、行動など、調査をしながら評価したい。そうすることによって、中学、高校といった中等教育での体系化された著作権教育カリキュラムが完成するとともに、他校への汎用性が生まれると考える。

流れ --- 目的 > 授業の流れ > プランニング > 著作権問題 > 具体的収集手段 > 制作

## 目的

膨大な情報量を持つインターネットから自分が欲する情報を収集するには、それなりの訓練が必要である。その訓練を行うことによって、より良質な情報を収集し、自分自身の知識として身につけることができる。webページを制作することによって自ら情報を発信し、作品を発表することができる。反面、セキュリティやプライバシー、そして著作権など様々な問題が生じてくる。ここでは、情報を収集し整理し発信することの重要性、そして生じる問題点に気付くことによって、発信する側の責任について考えたい。

## 授業の流れ

1	グループ研究の説明、グループ分け	1時間
2	プランニング(テーマの決定、コンセプトシート、構成図)	1時間
3	情報の収集(インターネット、書籍での資料収集)	2時間
4	ホームページの制作	3時間
5	中間発表、プレゼンテーション	1時間
6	ホームページの制作	5時間
7	発表会、プレゼンテーション	2時間

## プランニング

研究テーマが決まったら、コンセプトシート、計画表、構成図を記入します。グループで意見を出し合いながらまとめていきましょう。

webページを制作する上で最も重要なことは、何を見せたいのかそれをまずきめることです。「見た目」も大切ですが、一番大切なのは「内容」です。ここをちゃんと詰めておかないと、必ず後で行き詰まり、ページや画像のリンクがガタガタの無様なページになってしまいます。まずは頭の中にあるものを紙に書き出し、載せたい内容の優先順位を付け、一番見せたいページは何か、次は何かを割り出しておくのは大切なことです。

### <コンセプトメイキング>

webページのデザインで最初に考えなくてはならないことは「なぜ作るか」「なにを作るか」かです。それをはっきりさせることをコンセプトメイキングといいます。企画書を記入して目的・利用対象者・内容などについて検討することが重要になります。

### <スケジューリング>

コンセプトシートが完成した時点で、次に制作のスケジュールを作成します。作品の公開日程を決め、それに合わせて制作スケジュールをたてます。情報収集、素材制作、ページの作り込みに必要な日数、時間を考えて計画表を書くといいでしょう。

### <構成>

次にwebページ全体のページ構成を考えます。webページは階層構造で組み立てると、ページのリンクがイメージしやすくなり、ページ数が増えても迷子になりにくく扱いやすいです。公開されているほとんどのwebページはこの階層構造で組み立てられています。webページは、書籍の表紙にあたるトップページが最初にあります。サイトにアクセスすると必ずこのトップページから開きます。よくwebページのことを「ホームページ」とよびますが、本来はどのページにリンクしても、このトップページに戻るという意味でトップページのことを「ホームページ」と呼ばれています。

そして、制作するページのイメージを具体化するために、ページごとに絵コンテを描きましょう。手書きで描いていきますが、ページ全体のレイアウトを重視して、デザインや見やすさを考えて描きましょう。文章や写真、イラストの配置、イメージもこの時点で描いておくのとあとから素材を作る時に便利です。

## 情報の収集1・著作権問題

情報の収集では、webページ・書籍・アンケート・取材といった手段が定石となっており、企画内容を整理する段階で、主にその中からどういった手段で収集すべきか検討します。ところが、ただ情報を収集して、それを切り貼りしてwebページを作ればいいのかというわけではありま

せん。他人の制作した情報を使う際、そこには「著作権」問題が生じます。まずはそのことを頭に入れた上で、情報収集計画を立てましょう。

#### <著作権とは>

知的財産権のひとつで、作者がその著作物を独占的に利用できる権利をいいます。著作物の複製・上演・演奏・放送・展示・翻訳などを含み、書籍、webページなども著作権に十分注意する必要があります。著作権表示は「Copyright...All rights reserved」「(C)」の形で記されていることが多いです。

詳しくは、社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会のサイトを参考にしてみてください。  
<http://www.accsjp.or.jp/>

#### <著作物の使用許諾を取る>

書籍、webページの情報を利用する場合、その著作権は基本的に著者、出版社やサイト管理者に存在するため、以下の手続きを踏まなければなりません。

文章の場合	写真・図表の場合
記述されている文言をそのまま使用することはできません。参考として利用する場合は、自分で文章を作り、最後に参考文献として出版社、著者、発行年を記述します。webページの場合はサイト名、URLを記述してください。	使用する際には著作権者とE-mail、電話あるいはFAXで連絡をとり、使用許諾を得なくてはなりませんので、文章よりも手間がかかります。

写真・図表を利用する場合、E-mailで連絡できるならば、それで許諾を得るといいでしょう。下に1つ例文を挙げますが、成功の秘訣は、「自分は誰なのか」「使う目的とそれまでのいきさつ」「何を使いたいのか」「自分の連絡先」などを明確にすること、そして礼儀です。これは電話やFAXの場合にも言えることです。

はじめまして。  
 私は神奈川大学附属高等学校2年の神奈川太郎と申します。突然のメールをお許しください。今回、学校の情報の授業でホームページを制作することになり、私たちのグループは「花火づくり」をテーマに資料収集を進めているところです。貴サイトのページ「大花火大会の舞台裏」の、

- ・写真全11枚
- ・火薬の配置の図全3枚
- ・隅田川花火大会の花火の製造元リスト

を、貴サイトの名前とURLを表示の上、使用させていただきませんか。

どうか、よろしく願いいたします。

神奈川大学附属高等学校 2年 神奈川太郎  
 81taro-kanagawa@lycos.ne.jp

## 情報の収集2・具体的収集手段

### <二次的データ>

他人の制作したデータのことです。これを利用する際、前述の「著作権」問題が絡んできますので注意してください。

#### (a) 書籍

これは情報収集の基本であると言えます。この学校の図書室や家の近くの図書館、横浜市立図書館、神奈川県立図書館といったあたりで探すことが多いと思いますが、神大附属の高校生なら、神奈川大学図書館を利用するというのも一つの手です。

#### (b) webページ

この学校の強みが活かせます。しかし、WWW上には数多くのwebサイトが存在するので、探し方を間違えると時間ばかりかかってしまいます。有用な情報を迅速に得るために、次の3つは覚えておきましょう。

- 1) あるならば、公式ページを探す
- 2) 検索するとき、「絞り込み検索」(キーワードの後に、スペースをおいてさらにキーワードを入力する)を有効に利用する
- 3) どうしてもない場合はきっぱりとあきらめて、書籍等他の手段を用いる

さて、ページ検索をする際、あなたはLYCOSやYahoo!を使うと思いますが、そういったサイト

のことを「サーチエンジン」と言い、それらのほかにもまだまだあります。サーチエンジンには「ディレクトリ型」「ロボット型」の2タイプがあり、前者は登録されたサイトをカテゴリ(テーマ)ごとに整理し、その中で検索を行うもので、後者は定期的にWWW上の不特定多数のページを巡回し集めた文書の山から検索を行うものです。ディレクトリ型のいいところはヒットする(見つかる)情報の質がいいことで、ロボット型のいいところは、なかなかマイナーなキーワードからも多数のページがヒットすることです。

ディレクトリ型	中性	ロボット型
Yahoo! JAPAN <a href="http://www.yahoo.co.jp/">http://www.yahoo.co.jp/</a> Yahoo! USA <a href="http://www.yahoo.com/">http://www.yahoo.com/</a>	LYCOS Japan <a href="http://www.lycos.co.jp/">http://www.lycos.co.jp/</a>	infoseek Japan <a href="http://www.infoseek.co.jp/">http://www.infoseek.co.jp/</a> goo <a href="http://www.goo.ne.jp/">http://www.goo.ne.jp/</a> Excite Japan <a href="http://www.excite.co.jp/">http://www.excite.co.jp/</a>

なお、WWWから集めた情報は、このように整理するとよいでしょう。

- 1) アドレスを自分のフォルダに保存する  
Internet Explorerの「アドレス」の左側にあるアイコンを、自分のフォルダまでドラッグ & ドロップ。
- 2) 必要なページをプリントアウトする  
大変便利ですが、大量印刷は控えましょう・・・。
- 3) ページ上の文書(テキスト)・写真・グラフなどを一括して自分のフォルダに保存する  
「ファイル」メニューの「保存...」で、?を選んでOK。

#### <一次的データ>

一次データとは、自分で集めたデータのことです。

#### (c) アンケート

学校の生徒、教員の意識調査からデータを集める事は、研究を行う上で大変有効な場合があります。また、学校外でアンケートをとっても構いません。チャレンジしてみましょう。ただし、アンケートは大量の紙と人の手間がかかる情報収集手段なので、本当に必要なのかどうかをじっくり考えた上で行ってください。

#### (d) 取材

ただ資料を集めるより、実世界から「材を取る」ことで、できるwebページの表現力が格段に上がります。デジタルカメラで写真を撮ったり、事前にアポイントメントをとってインタビューをしたりすることは、きっとよい人生経験になることでしょう。学校では、デジタルカメラやデジタルビデオを用意しています(数に限りがあります)。そのほか、ボイスレコーダーなどを使ってもよいでしょう。

## 制作

「リファレンス > ソフトウェア」以下を参考にしてください。